

Club BUSINESS FARMERS

CONTENTS

全国大会

定例セミナー第6弾、第7弾

海外出展・視察ツアー

1～2月の活動予定・参加申込書

Vol.5 2008年1月1日発行

■発行・編集/株農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局 (担当:長谷川)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

企画

第1回全国大会の準備進む テーマは「日本農業のイノベーション」に決定!!

読者の会では08年2月15～16日、2日間にわたり全国大会を開催する。記念すべき第1回全国大会のテーマは「日本農業のイノベーション」に決定した。

今、農業にイノベーションが求められている。それは技術革新だけではなく、農業経営のビジネスモデルやマーケティングについても言える。さらには生産者組織をいかに作るか、周辺の農業インフラはどうあるべきか、といった側面もあてはまる。農業が政治・行政主導型の産業から脱却していくために必要なのだ。

農業のあるべき経営を考えると、他の産業と同じように顧客志向にたどりつく。それを実現するキーワードとして、農業のイノベーションに焦点をあてる。

先駆者達による分科会

初日、鏡開きの基調講演はイノベーション論と企業文化史の第一人者である

米倉誠一郎氏（一橋大学イノベーション研究所教授）。同氏が農業におけるイノベーションチャンスを語る。

午後の分科会では、実際にイノベーションを実践してきた農業界の6人の先駆者達をゲストに招く。参加者は次の①～⑥のテーマにおいて、それぞれイノベーションを実践したゲストと、ゼミ形式の分科会に参加する予定だ。

- ① 腹ではなく心を満たす農業ビジネス
- ② 水稲生産における技術革新と経営展開
- ③ マーケットインの農業周辺インフラ



分科会では自分の経営課題にあわせたテーマを選ぶ。

- ④ 成功する産地からのネットビジネス
 - ⑤ マーケット本位の生産者組織作り
 - ⑥ Made in Japan か、Made by Japan
- 分科会では、自分の経営課題にあわせたテーマを選び、事業開発のヒントを得て貰いたい。その後の懇親パーティーは全国の農業経営者、そして業界関係者との人脈を広げる絶好の機会となるはずだ。

現地視察は2コース

2日目には、コメ生産者と野菜生産者の2コースに分かれ、貸切バスで現地視察する。視察先は初日のゲストが創りあげてきたイノベーションの現場だ。視察先には千葉県の(農)和郷園のほか、乾田直播の実演農場などを計画している。お問合せは事務局まで。



視察先には(農)和郷園のほか、乾田直播の実演農場などを計画。

定例セミナー第6弾!

粗飼料供給ビジネスの展開

11月22日(有)坂上芝園、地域畜産を支援する野菜農家の取り組みを語る

500馬力のコーンハーベスタで80haのトウモロコシを収穫、4tダンブでバンカーサイロに積み込み、7tローダーの踏圧で乳酸発酵を促す。できたサイレージを、ローダーでロールベラに入れて再梱包する。この工程をゼロから創りあげたのが、(有)坂上芝園専務取締役の坂上隆氏だ。剣道7段、力強い語調で事業を語る。

「私が話ができるとすれば、能力とか技術がどうこうの話ではありません。農業のコテコテの考え方ではなくて、面白い考え方もできるという話です」

もとは加工用ジャガイモ、サツマイモ、ケールの契約栽培をする野菜農家。センチユウ対策にかかる農薬費を抑えるために、緑肥を植えたことが始まり。当初はすき込んでいたのだが、畜産農家にもつたいない分けてくれと言われ「これは仕事になる」と考えた。園芸部門での経営余剰・人材・機械を輪作の飼料作物に利用し、サイレージ加工して畜産農家に販売して堆肥をもらうというビジネスモデル、有機的な農業の輪が始まった。



500馬力のハーベスタでトウモロコシを収穫、4tダンブが軽トラのように見える。

03年、12haにトウモロコシ・ソルゴーを混播して、販売先の酪農家から機械を借りて収穫、これをサイロまで輸送する生草販売を始めた。実際やってみると家畜農家と野菜農家での意識の違い、サイロの整備状況など、いろいろわかった。次年は大分や北海道などの粗飼料供給事業やコントラクター、大規模酪農家等を視察。一度サイロに詰めたものを再ロールするという、常識外れのアイデアはここから得た。翌年、台風に強い作付けを可能にするスエーデン製キャリアー、硬盤破碎するプラソイラなどに自己資金を投資して、本格的に牧草事業を開始。業者

の捨てコンでバンカーサイロを造成。ロールで巻いたものを一度ばらして、再梱包できるか農機メーカーを集めて実験した。できたサイレージを分析センターで品質検査すると、重機で踏むため発酵は良好だった。畜産農家は飼料を外国産に依存しているのが経営の弱みだが、国内で採算にのせて生産できるとは誰も思っていなかった。

売上目標は100億円と掲げながらも、坂上氏の語り口は飄然としている。「耕地を管理して社会の需要がある時にいつでも使えるようにしておきたい。野菜では無理だが、機械化できる飼料作物ならそれができるから」

定例セミナー第7弾

戦後農政を総括する

宮城大学大学院教授大泉一貫氏、12月14日セミナーで特別講演!

「戦後農政はそろそろ終わるかな、と思っていたのですが、参議院選挙が終わった後、必ずしもそうではないという雰囲気になってきた」

農業はいつも政治に翻弄される産業、と大泉氏は語る。安倍政権までは少なくとも農業の活性化を通じた自立型の農業・農村振興政策だった。今、これが格差を生むというので、財政依

存型の農家所得向上・社会保障的な保護政策に先祖がえりしつつある。

自立型農政とは何か、それによって、どういう社会ができるのか。わかりやすいモデルはオランダやスイスなど、EUの成熟小国だ。これらの国々ではITなどの先端産業とともに、農林水産業が主要産業であり、輸出産業に成長している。日本は、EU諸国と一体どこが異なるのか?それはオランダにおけるITと花卉、スイスにおける観光と農業のように、農業と他産業との有り様が大きく関係している。

日本でも、千葉・茨城・愛知・静岡など、成熟した消費市場を抱え、他産業のノウハウや成果を利用でき、産業同士の融合が可能な地域では農業が成長している。他産業を意識した顧客志向の強い「先進国型」農業を展開する際には、政策も「産業振興的な農政」を意識して、民間の知識やアイデアを活かす仕組みづくりが必要だ。

さて、戦後農政ではどうだったか?農水省の産業政策は、施策が目標に向かって体系化していない。農政課題が並立し、施策が相互に相殺している(例えば米価維持政策と農業経営の体質強化のように)感があり、実効性に乏しい。理由として、①政策が政治イシューになることが多く、絶えず揺れ、思い切った施策展開ができない②政策課題が全国一律で、地域や個々の

申込締切
1月25日

急成長するアラブ産油国視察ツアー ドバイ贅沢市場とサウジ巨大農場

2008年2月21日出発 7日間 554,800円

東京・大阪発 (2名1室利用/お一人様)

*上記旅行代金には燃費サーチャージ・出国税は含まれておりません。別途お支払い下さい。

■日程

#	月/日/曜	発着地/滞在地	現地時刻	交通機関	摘要	食事
1	2008年 2月21日 (木)	大阪(関空) 発	23:15	EK317	空路、ドバイへ (機内泊)	機内
2	2月22日 (金)	ドバイ 着	4:45 午前 午後	専用車	ドバイ市内の高級食材市場の視察 ・港、通関施設、物流センター ・青果市場、ショッピングモール ・伝統的なアラブ市場(スーク) ・世界唯一の7つ星ホテル「パージュ・アル・アラブ」にて夕食 (ドバイ泊)	× 昼食 夕食
3	2月23日 (土)	ドバイ 滞在	終日	専用車	ホテルにて朝食 アブダビ周辺の施設園芸農場視察 (ドバイ泊)	朝食 昼食 ×
4	2月24日 (日)	ドバイ 滞在 ドバイ 発着 リヤド 着 ハーフ・アルバーティン 着	終日 18:40 19:35	専用車 EK817 専用車	ホテルにて朝食 ホテルより会場へ 「GulfFood2008」を視察 空路、リヤドへ 陸路、ハーフ・アルバーティンへ (ハーフ・アルバーティン泊)	朝食 × ×
5	2月25日 (月)	ハーフ・アルバーティン 滞在	終日	専用車	宿泊先にて朝食 ・アラビア砂漠農業 ・灌漑施設等の見学 (ハーフ・アルバーティン泊)	朝食 × ×
6	2月26日 (火)	ハーフ・アルバーティン 発着 リヤド 着 リヤド 発着 ドバイ 着	21:05 23:40	専用車 EK818	・ハーフ・アルバーティン青果市場視察 陸路、リヤドへ ・リヤド市内の青果市場、高級食材マーケット視察 空路、ドバイへ	朝食 × ×
7	2月27日 (水)	ドバイ 発 大阪(関空) 着	2:35 17:20	EK316	空路、帰国の途へ 到着後、解散	機内

■日本発着航空会社：エミレーツ航空 管理番号：044907111046-K-BSP

- *札幌、福岡 発着は追加料金がかかります。
(札幌 20,000円/片道、福岡 15,000円/片道)
- *飛行機ビジネスクラス利用追加料金 390,000円
- ご利用予定ホテル：グランド・ハイアット・ホテル(ドバイ)
- *一人部屋使用追加料金：118,800円
- *オプションでデラックスリゾートホテル宿泊のコースあり
- *パージュ・アル・アラブ宿泊プラン追加料金 148,000円
(2名1室利用/お一人様1泊当たり)
- *ハーフ・アルバーティンでの宿は未定

■食事：朝食4回、昼食2回、夕食1回
(この回数に機内食は含まれません)

■最少催行人員：10名

■添乗員：添乗員は同行しませんが、現地係員とアラビアンブリッジ及び農業技術通信社のスタッフがお世話いたします。

*詳しい旅行条件を説明した書面(パンフレット)をお渡ししていますので、事前にご確認の上、お申し込みください。

■研修企画：株式会社 農業技術通信社

■旅行企画・実施：近畿日本ツーリスト株式会社(担当：西原・八鳥)

国土交通大臣登録旅行業第20号、(社)日本旅行業協会正会員、ボンド保障会員、旅行業公正取引協議会会員

住所：〒130-0013 東京都墨田区錦糸3-2-1 アルカイースト18階

TEL：03-6658-1031 FAX：03-6658-1032

(営業時間：月～金曜日 9：15～17：00、土日祝日休み)

経営者にふさわしくない。さらに民間への不信感があり、民間のアイデアが蓄積しない構造がある。③農家の所得形成、有効需要創造に特化し、農業団体をパートナーとした中央集権的な「戦後高度経済成長期」の発想が底流にある。

福田政権が続く限りこの方向への「逆流」が続き、農業経営者育成政策が初めて登場した92年以前に戻っていただくとうと大泉氏は憂えている。

海外出展ツアー

Gulf Food 2008
日本パビリオンに
読者の会から参加決定!

読者6団体が応募したGulf Food 2008「日本パビリオン」。農林水産省の委託事業として出展審査を待っていたが、12月上旬に結果発表があり、

読者の会からは国立ファーム(有)の出展が決定した。出展団体として発表されたのは農業法人だけでなく、食品加工、商社、飲料メーカー、水産加工、菓子製造など。今回は約3倍の競争率だった。

審査では、各団体が提出した書類のプレゼンが決め手となった。英文パンフレットを添付するなどの、輸出むけの取組みのアピールが評価されたようだ。

聴ける。

毎月開催される『農業経営者』読者の会定例セミナーが、本誌HPで聴講できるようになりました。農場の成長・発展に役立つ情報源として、人材育成の教材として、是非一度お試しください。

↓いますぐアクセス

<http://www.farm-biz.co.jp/semi/>

1/18

金

会場／(株)農業技術通信社内セミナー会場
時間／16:00～18:00



〔講師〕小林彰一氏
(農経企画情報センター代表取締役)

「2008年、野菜流通はどう変わるのか!?」

PROFILE●1949年長野県生まれ。青果物など農産物流通を専門とするジャーナリスト。農産物流通のオピニオン情報紙『THINK&SAY』（新感性）を発行。著書に、「ドキュメント青果物市場」、「日本を襲う外国青果物」（いずれも森祐二名義・家の光協会）『野菜のおいしさランキング』（共著・晩聲社）など。本誌上で、「今年の市場相場を読む」を連載中。

企業との契約栽培、市場外流通が増える中、従来の流通秩序やシステムが通用しなくなっている。青果物流通業界での30年以上にわたるジャーナリスト活動を通し、売り手・買い手双方の思惑を熟知する同氏が2008年の野菜流通を予見する。

2/20

水

～22

金

会場／東京ビッグサイト
時間／10:00～17:00

食品スーパーマーケットを中心とする流通業界に最新情報を発信するプロ向け専門展
第42回 2008スーパーマーケット・トレードショー
主催：(社)日本セルフ・サービス協会



読者の会では、共同出展者を募集しています。
共同出展費：100,000円（造作費込・税別）

- ①自分の商品を直接バイヤーに売り込みたい!
- ②外食・中食、卸、小売の販路を広げたい!
- ③バイヤーの求める商品を生の声で聞きたい!
- ④他の生産者の売り込み方を見てみたい!
- ⑤展示会には出たいが手続きや準備が大変そう...

ひとつでも当てはまる方、奮ってご参加ください。お問合せは☎03-3360-2697（担当/並木）まで!
※定員になり次第締切ります。お申込はお早めに!

◎参加申込書 (FAX専用 0120-410-359)

申込は今すぐ!!

■参加を希望する項目に☑して、必要事項をご記入下さい。

☐ 1/18 (金) 小林彰一氏 セミナー 申込

参加枠	<input type="checkbox"/> 一般参加 (5,000円)	<input type="checkbox"/> 定期購読者 (参加費無料)
	<input type="checkbox"/> この機会に定期購読 (1年・18,000円/送料・税込) を申し込む	
<input type="checkbox"/> セミナー終了後の懇親会に参加 (18:00～20:00・会費1,000円)		
<input type="checkbox"/> 商談会への共同出展 申込 ※共同出展費：定期購読者100,000円 (造作費込・税別)		
参加枠	<input type="checkbox"/> 定期購読者 (共同出店へのご参加には、定期購読のお申込が必要です)	
	<input type="checkbox"/> この機会に定期購読 (1年・18,000円/送料・税込) を申し込む	
<input type="checkbox"/> 『農業経営者』読者の会 全国大会 申込 ※参加料：2日間通し—50,000円/定期購読者 (一般参加80,000円) 初日のみ—30,000円/定期購読者 (一般参加50,000円)		
参加日	<input type="checkbox"/> 2/15 (金)・16 (土)	<input type="checkbox"/> 2/15 (金) のみ
お名前	会社名 農場名	TEL
E-mail		FAX
ご住所 〒		参加人数
		名

お申込方法/FAX 0120-410-359まで送信してください。(農業経営者HP <http://www.farm-biz.co.jp/> からもお申込できます) お問合せ/(株)農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局TEL 03-3360-2697

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。